

事務事業評価表（一般事業）

評価対象年度	令和 元 年度
1次評価日（主幹等）	2年3月31日
2次評価日（課長等）	2年3月31日

1 事業名	小鳥バス事業	コード	8201
-------	--------	-----	------

2 担当部課	部等	産業振興部	課等	商業観光課	作成者	小口 和久
--------	----	-------	----	-------	-----	-------

3 事業概要	目的体系	基本目標	人が集い、にぎわいと活力あふれるまち		
		政 策	地域資源の活用	施 策	観光の振興
		予算科目	観光宣伝費（小鳥の森事業）	業務委託	なし（直営）
		実施義務	その他（内部事務等）	国県補助	なし
		根拠法令	なし		

●事業の内容（D0）

4 事業の概要等		*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）	
事業の概要 （簡潔に）	塩嶺小鳥の森において小鳥の森コーディネーターの案内により、自然と小鳥のさえずりを楽しみながら散策する。		
目的	対象者	小鳥バス参加者	
	意 図	小鳥バス参加者が、野鳥や塩嶺御野立公園の自然を楽しむ	

5 事業の実施内容		*元年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容	
<p>塩嶺小鳥バスは、昭和29年「愛鳥精神」のもと、自然を楽しみ、自然を大切にしようと、日本野鳥の会諏訪支部の運営でスタートしました。毎年5月と6月の毎日曜日の早朝に、小鳥の森コーディネーターの案内により『塩嶺小鳥の森』で開催している事業。</p> <p>《通常イベント》 ○小鳥バスは、上諏訪駅西口より下諏訪町を經由し塩嶺小鳥の森（塩嶺閣）までの各バス停から参加者を乗せ運行。塩嶺閣からは、小鳥の森コーディネーターの案内により約2時間塩嶺小鳥の森を散策しながらバードウォーチングを行い、塩嶺閣に戻ってから当日確認できた小鳥などの話を聞くイベント。</p>			
前年度の課題への対応			

6 指標の達成状況		*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度			
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度（予算）	
① 活動指標（指標名）	塩嶺小鳥バス			単位	回
実績値	8	8	9		
* 指標の説明	イベント回数				
② 成果指標（指標名）	参加者数			単位	人
目標値	360	360	360	0	
実績値	363	385	323		
達成度	100.8%	106.9%	89.7%		
* 指標の説明	参加した人数				
* 目標値の設定方法の説明	3ヶ年の平均実績				

7 ア) コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
① 直接事業費	3,540,092	3,541,051	3,381,082	3,724,000
経常経費	3,540,092	3,541,051	3,381,082	3,724,000
臨時的経費				
* 臨時的経費の説明				
区分	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
② 人件費	320,000	320,000	320,000	320,000
正規職員の人数(人)	0.04	0.04	0.04	0.04
③ 合計コスト(①+②)	3,860,092	3,861,051	3,701,082	4,044,000
前年度比		100.0%	95.9%	109.3%
財源	3,860,092	3,861,051	3,701,082	4,044,000
一般財源				
内訳				
特定財源				
* 特定財源の説明				
④ 活動一単位あたりコスト	482,512	482,631	411,231	
前年度比		100.0%	85.2%	
⑤ コストに関する補足説明				

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名		29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
小鳥バス事業負担金	件数	1	1	1	1
	金額	600,000	600,000	600,000	600,000
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア)の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	合計金額	600,000	600,000	600,000	600,000
	割合	16.95%	16.94%	17.75%	16.11%

* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

* 有効性=成果指標(項目7/住民の満足度)は向上しているか。

有効性

標準

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。	成果指標の実績値 前年度比 83.9%	0
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	成果指標の目標値 達成度 89.7%	0

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること) 参加者増に向けた情報発信及びPR活動の推進。	
	(上記の課題をふまえて2年度以降に実施する、具体的な改善の内容) 商談会での積極なPRやHP・SNSなどによる情報発信を行う。	
改善方法		
改善開始時期	H30.4	

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による2年度の優先度 *H30年度施策評価表より転記すること	A
-----------	--------	--	---